

博士論文 2018（平成30）年度

企業の社会的責任要因分析
—地域・社会行動と環境行動に着目して—

慶應義塾大学大学院商学研究科

曾 広 桃

はじめに

経済の成長にともない、社会問題や環境問題が絶えず発生した。公衆から社会問題や環境問題に対する関心が高まるうち、企業に対して「何かしらの社会の一員としての役割を果たしてほしい」、すなわち、企業の社会的責任を問う声が高まってきた。このように企業の社会的責任は、歴史的に生成及び発展し、今や国内企業だけではなく企業の海外子会社などに対しても、アメリカやイギリスなどの一国内だけではなく、日本が含まれる国際社会に全面的に問われるものになっている。様々な社会的責任に関する問題があるものの、特に地域・社会と自然環境に関する社会的責任問題が長い間、注目を集め、歴史的に重要な立場を占めてきた。本論文は企業の社会的責任における要因を明らかにするため、日本企業の地域・社会行動と環境行動に着目し、それらに影響を与えるメカニズムについて議論し、実証研究を行う。

第1章 社会的責任と地域・社会行動、環境行動

第1章において、企業の社会的責任の歴史的背景を概観したうえで、企業の社会的責任とは何かについて、学術的な研究成果の変遷を確認した。そのなか、企業の地域・社会行動と環境行動とは何かについても確認した。そして、本論文の実証対象である日本企業の社会的責任において、歴史的な概況を説明したうえで、地域・社会行動と環境行動の重要性が比較的高いものであることを示した。企業の社会的責任における要因を明らかにするため、地域・社会行動と環境行動に着目し、それらに影響を与えるメカニズムについて議論し、実証分析を行うことの意義を確認した。

第2章 地域・社会行動と環境行動—研究の現状と課題—

第2章においては、まず企業の地域・社会行動と環境行動に関する議論の歴史を振り返る。その後、企業の地域・社会行動と環境行動に影響を与える要因に関する研究につ

いて、内部の要因と外部の要因という2つのアプローチからより詳細にレビューし、本論文のリサーチクエスチョンを提示する。

企業の地域・社会行動と環境行動に関する議論の全体像を見ると、大きく2つの課題が議論されてきたと言える。第一に、企業の地域・社会行動と環境行動が財務的パフォーマンスへ与える影響である。第二に、企業の地域・社会行動と環境行動の要因である。企業の地域・社会行動や環境行動と財務的パフォーマンスの緊張関係は、2010年代現在まで、一連の理論研究と実証分析によって、緩和されている。一方、企業の地域・社会行動と環境行動における要因はますます注目されるようになってきた。

本論文は、企業の地域・社会行動と環境行動に影響を与える要因に関する研究について、内部の要因と外部の要因という2つのアプローチからより詳細にレビューした後、どのような点が明らかになっており、どのような点がまだ解明されていないのかを議論した。そして、それらのレビューの結果をもとに、3つのリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1：従業員はどのように企業の地域・社会行動と環境行動へ影響を与えるか

RQ2：海外投資家はどのように企業の地域・社会行動と環境行動へ影響を与えるか

RQ3：CSR ランキングはどのように企業の地域・社会行動と環境行動へ影響を与えるか

第3章 従業員が地域・社会行動と環境行動へ与える影響

第3章では、RQ1への回答を試みるために、従業員によるレピュテーションに着目し、従業員が企業の地域・社会行動と環境行動へ与える影響について議論する。従業員によるレピュテーションや潜在的従業員によるレピュテーションは、企業にとって、無形資産であり、持続可能な競争力の源泉の1つである。従業員によるレピュテーション

や潜在的従業員によるレピュテーションが高いほど、企業は競争優位を維持しようとするため、これらのレピュテーションを維持・向上させようとする。一方、企業の地域・社会行動と環境行動はシグナリング効果を持つため、従業員によるレピュテーションと潜在的従業員によるレピュテーションを維持・向上させる有効な手段となりうる。本章では、従業員によるレピュテーションや潜在的従業員によるレピュテーションが企業の地域・社会行動と環境行動へ与える影響に関する仮説を設定し、検証を行った。具体的には、以下の結果が示された。第一に、企業は従業員によるレピュテーションが高いほど、環境行動をとる傾向が強くなる。第二に、企業は潜在的従業員によるレピュテーションが高いほど、地域・社会行動をとる傾向が強くなる。第三に、企業は潜在的従業員によるレピュテーションが高いほど、環境行動をとる傾向が強くなる。

第4章 海外投資家が地域・社会行動と環境行動へ与える影響

第4章では、RQ2への回答を試みるために、海外投資家の劣位と優位の2つの視点を踏まえ、海外投資家が企業の地域・社会行動と環境行動へ与える影響について議論する。海外投資家の劣位の視点から見ると、投資母国と投資先国の間における地理的、言語的、経済的、政治的、文化的差異の存在のため、海外投資家は国内投資家と比べて情報的劣位になり、現地企業に関する情報の非対称性やリスクの問題に敏感になりやすい。一方、企業の地域・社会行動と環境行動はシグナリングと保険の機能を果たしている。海外投資家の劣位の視点では、海外投資家は地域・社会行動と環境行動に関心を持ち、高く評価する傾向にある。海外投資家の優位の視点から見ると、海外投資家が国内投資家よりイノベーティブである。一方、企業の地域・社会行動と環境行動はイノベーションの側面の1つであると見なされている。海外投資家の優位の視点でも、海外投資家は地域・社会行動と環境行動に関心を持ち、高く評価する傾向にある。このような海外投資家からの企業への評価や期待は、その企業の経営者の地域・社会行動と環境行動に関する意

思決定へ影響を与えている。そして、海外投資家が企業の経営者の意思決定へ与える影響力は彼らの株式所有比率に依存している。本章では、海外投資家の株式所有比率が企業の地域・社会行動と環境行動へ与える影響に関する仮説を設定し、検証を行った。具体的には、以下の結果が示された。第一に、海外投資家の株式所有比率が高い企業は、地域・社会行動をとる傾向が強くなる。第二に、海外投資家の株式所有比率が高い企業は、環境行動をとる傾向が強くなる。

第5章 環境ランキングが環境行動へ与える影響

第5章と第6章では、RQ3への回答を試みるために、CSRランキングが企業の地域・社会行動と環境行動へ与える影響について議論する。CSRランキングは環境ランキングのような個別ランキングとCSR総合ランキングに分けられている。第5章は個別ランキングの一種である環境ランキングに焦点を当て、環境ランキングが企業の環境行動へ与える影響について議論する。

企業は評価された環境ランキングが高いほど、ステイクホルダーから「環境に社会的責任的」としてカテゴリ化されたうえ、積極的にフィードバックされる。結果として、企業はこの機会を掴むよう、積極的に環境行動をとることになる。企業は評価された環境ランキングが低いほど、ステイクホルダーから「環境に非社会的責任的」としてカテゴリ化されたうえ、消極的にフィードバックされる。結果として、企業はこの脅威に対処すべく、積極的に環境行動をとることになる。企業は評価された環境ランキングが高くもなく、低くもない場合、ステイクホルダーからカテゴリ化されにくいため、あまり行動しなくなる。本章では、環境ランキングが企業の環境行動へ与える影響に関する仮説を設定し、検証を行った。その結果、企業は、評価された環境ランキングが高いほど、または低いほど、環境行動をとる傾向が強くなることが示された。すなわち、環境ランキングと企業の環境行動はU字型の関係にあると言える。

第6章 CSR 総合ランキングが地域・社会行動と環境行動へ与える影響

第6章は、RQ3 への回答を試みるために、第5章の研究成果に続いて、CSR 総合ランキングが企業の地域・社会行動と環境行動へ与える影響について議論する。本章では、CSR 総合ランキングと企業の地域・社会行動、CSR 総合ランキングと企業の環境行動が U 字型の関係の存在を確認した。その結果は、企業は評価された CSR 総合ランキングが高いほど、または低いほど、地域・社会行動をとる傾向が強くなった。すなわち、CSR 総合ランキングと企業の地域・社会行動は U 字型の関係にあると言える。そして、企業は評価された CSR 総合ランキングが高いほど、または低いほど、環境行動をとる傾向が強くなった。すなわち、CSR 総合ランキングと企業の環境行動は U 字型の関係にあると言える。

第7章 結論

第7章では、本論文のまとめを行う。RQ1に関しては、従業員によるレピュテーションが企業の環境行動へ正の影響を与えること、及び潜在的従業員によるレピュテーションが企業の地域・社会行動と環境行動へ正の影響を与えることが明らかとなった。RQ2に関しては、海外投資家の株式所有比率が高い企業であるほど、地域・社会行動と環境行動をとる傾向が強くなることが明らかとなった。RQ3に関しては、環境ランキングと企業の環境行動は U 字型の関係にあることが明らかとなった。そして、CSR 総合ランキングと企業の地域・社会行動は U 字型の関係にあること、及び CSR 総合ランキングと企業の環境行動は U 字型の関係にあることも確認された。本論文は、これらのリサーチクエスチョンへの回答によって、企業の地域・社会行動と環境行動の要因に関する研究を充実させた。